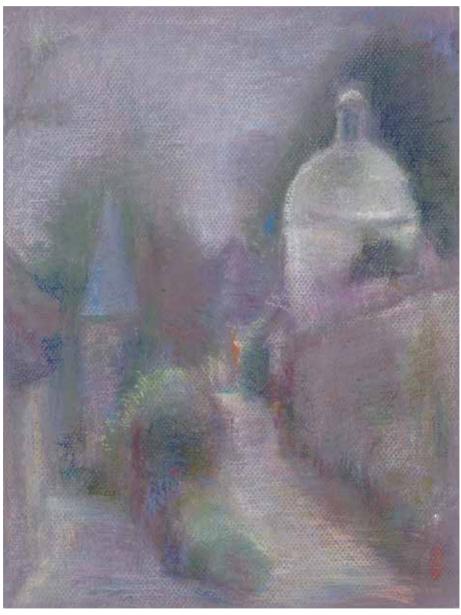
中 高 版

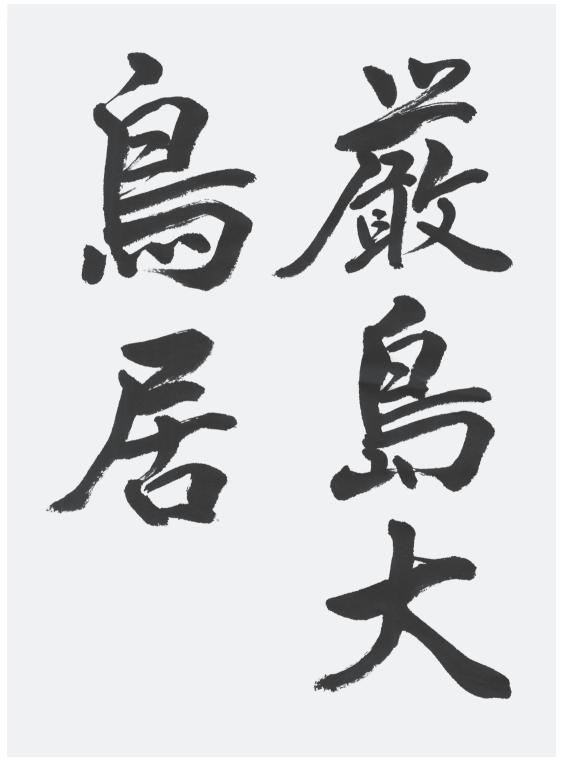




第44回全国公募千字文大会成績発表

公益財団法人 日本書道教育学会

厳島大鳥居

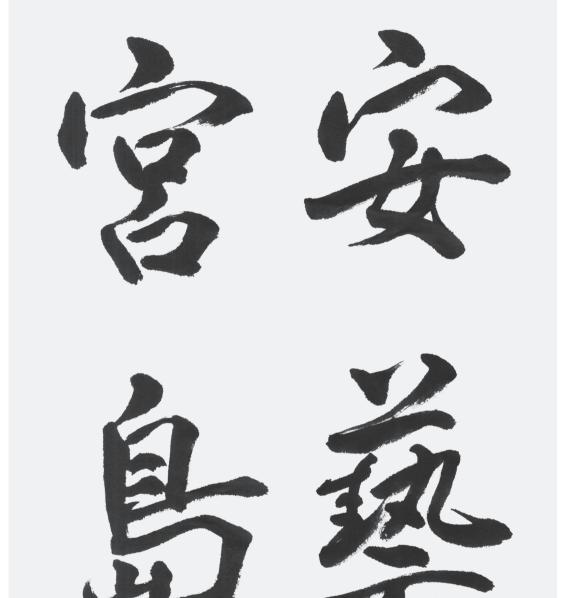


署名では姓名を記す

(解説は18ページ)

小久保嶺石先生書

安芸宮島



署名では姓名を記す

(解説は18ページ)

小久保嶺石先生書

平和の像う



署名では姓名を記す

小久保嶺石先生書

をたてに八等分した大きさ 36・5㎝の大きさで全懐紙

行う。

です。短冊には上下があり、

○下部が詰まり過ぎないよう、

少

提出用紙

―やや薄手の短冊練習用紙 二つ折にて郵送できるもの。

空けるとよいでしょう。

濃

○行間や、

字粒にも気をつけ、

作

余白

上部をおよそ1/4(約9㎝) またはおよそ1/3(約12㎝) 空ける

品として調和するよう心がけま

しょう。また最近では、このよ

るれい

いっていれのうんうい

幅 約6cm

長さ

約 36.5 cm

ました。

横約6㎝、

縦約

書き始める。

○墨継ぎは和歌の場合、

第一句・三句・五句で

さい。

たためる書式として広まり

○短冊の上部を1/3または1/4空け、

歌を

出品券を表面左下に貼付けしてください。 面には不二教室名、氏名を鉛筆書きしてくだ

○出品の際には、

必ずバーコード出品券と月別

(解説は19ページ)

鎌倉末期頃より和歌をし

伝統的な書式

用紙ならば、

糊付けされ

7

うな伝統的な書式にこだわらず、

由に書くこともあります。

いる方が上になります

が上といったもので、

練習

なる場合には色の濃いほう 淡は濃いほうが、着色が異 雲・霞形は広いほうが、 あ

は

n

(V

かに草葉の露のこぼるらむ秋風立ちぬ宮城野

の 原

「新古今和歌集

巻四

300

西行法師

短

册

につ

()

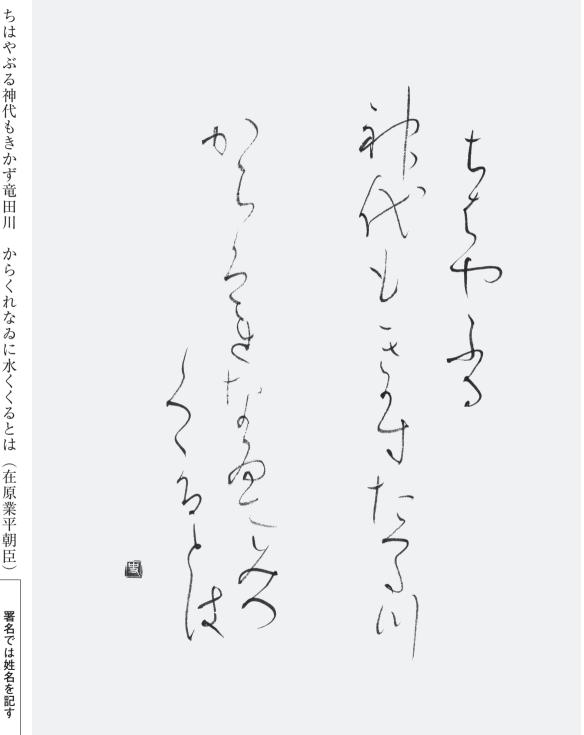
て

書式

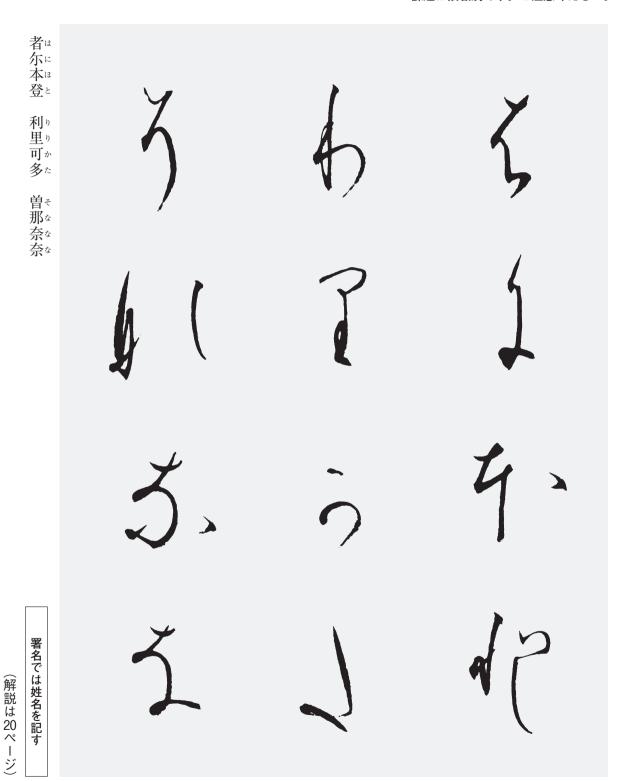
秀 歌 之 體で 大いりゃく

〈筆者〉

近衛家熙(一六六七~一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)



川島史子先生書



安東聖空書「梅雪かな帖」より



ください。

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをして

高州 对奥



統=不二墨=一味真墨=羊毫大筆

量などもよく做って書きましょうバランスよく適合させて、大きさ、墨ておくとよいでしょう。本文の三字と名)は自分の形を何パターンか用意しるい行書体で書きましょう。落款(署落款は本文を書いた筆を用い、読み食い込む深い線で均衡を保っています。の書き方です。画数は少なくても紙に高さに書かれています。横書ならではあらにずかれています。横書ならではあらにげて、少画数の「山」も含め同じを広げて、少画数の「山」も含め同じな方ですね。

「しゅみせん」と読みます。難しい読額として掲げられているようです。うに感じられます。いかにも山門の扁のいらっしゃる雰囲気を醸しているよお釈迦さまの世界観そのままに、神様

えています。飄逸とした文字からは、世界の中心にある須弥山が高くそび

〈お肝体鎖証〉

高山とも漢訳される。

ト語ではスメール、また妙

するという。サンスクリッ

山。日月はその中腹を回転

の中心にそびえるという高

須弥山…仏教における宇宙論で世界

〈解説〉

(用紙 面仙紙半切內) 石 橋 鯉 城 先 生 書

課題 横額「須弥山」

扁額の書をつくる(誌友~初段)課題は段級別です。ご注意ください。



概形は横長に。

木偏は

さらに戻るようにし

月」の2画目へ。

戻り、「月」の1画目へ。

力を抜いて中心まで

(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)

力

の1画目は直線を

連続して書くようにし

偏は最後に縦画を書く を切らずに運筆する。 もある形。「公」は流れ 楷書体のように4画目

行書の筆順)。

旁 の

うに。「壬」の縦画の後、 て骨力をつける。 「壬」は「手」を書くよ 「次」を小さく。

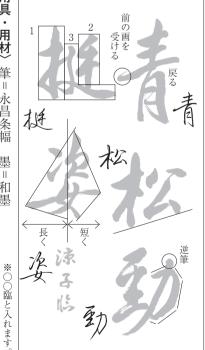
くして、左右の比重にとなる最終画は左を長 留意する。 連絡よく延繞に向かう。 長大画

(大意) 青松勁挺姿 青松勁挺の姿

(北宋・ 青々とした松が力強くまっすぐに伸びている。 〇八八年) 米芾 一 五 一 , 一 一 〇 七

大家の一人である。蜀素帖の他、 たもの。 「蜀素帖」は、 作者は米芾。字を元章といい、 蜀(現在の四川省) 「苕渓詩巻」「行書三帖」などが知られる。 (絹) 黄庭堅と並んで宋の四 に自作の詩を書い

〈用具・用材〉 筆=永昌条幅 (油煙墨) 紙=中国画仙祭幅 墨=和墨



※作品識別のため、作品下部に教室・ 氏名の鉛筆書きをしてください。

青…4画目の長大画は反らせ



桐一葉日当りながら落ちにけり

《作者》高浜虚子(一八七四~一九五九)《読み》桐一葉ひあ多利那可ら落ち二介り

(大意) 桐の一葉が落ちてゆく。大きな葉のであった。

(用紙 画仙紙半折・たて13㎝×よこ35㎝)

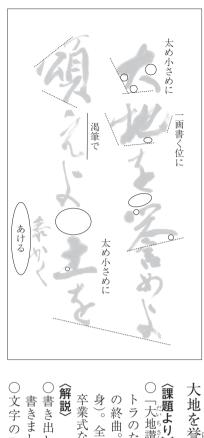
〈解説〉

するよう心がけました。○簡単な字形と細い線によって流れを表現

○「桐一葉」と「落ち二介り」は一字一字を 切って書く放ち書きとし、中の句の「ひ あ多利那可ら」は連綿を入れました。 つ全体を中央にまとめ左右の空間を生かし

〈用具・用材〉

筆=羊毛筆 墨=和墨 紙=かな用加工短



大地を誉めよ 領たえよ 土を

(用具・用材)

筆=和筆四号羊毛

墨=和墨

紙=手漉和画仙漢字用

○書き出しの「大」は、 ○「大地讃頌」… 混声合唱とオーケス 卒業式などでよく歌われる。 身)。全国の中学校で合唱曲として の終曲。大木惇夫作詞(広島県出 トラのためのカンタータ『土の歌』

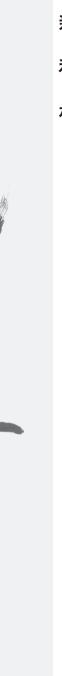
○文字の脚を揃え過ぎないように 書きましょう。 太く小さく

> しょう。 留意し、

○名前は、二行目の文節の空きに半分 ○短い線や点は、急がずに、 はかかるようにしてまとめましょう。 り丁寧に書きましょう。 ゆっく

余白に変化を持 たせま

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。





永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

用紙

署名では姓名を記す (解説は20ページ)

石橋鯉城先生書

堀 津節子先生書

それて日本國事跡考しに登場する。	松島、天橋立、官島は、「日本三界	古くから電勝地として親しまれていた
5	17、	1:

古くから景勝地として親しまれていた松島、天橋立、宮島は、 「日本三景」として「日本國事跡考」に登場する。

〈用具〉つけペン、万年筆またはデスクペン、 ボールペン インクは黒色 (鉛筆は不可)

〈用紙〉不二硬筆用紙3行書き

〈解 説〉 寝かせて * 内側一つはなして √ならないよう

平和 もみじ 鯉城 レモン しまなみ 熊野筆

> 〈用紙〉不二硬筆用紙2行書き **〈用具〉**つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン インクは黒色 (鉛筆は不可)

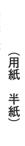
〈解 説〉 ねかせる **→** 右へ出す 点を3つ打つ 平がなと筆順が違う 片かなの「ン_ ゆるやかなS字 方向を変える

小 島 鳳 洽 先生 書

字書って面白いな〟 筆遣い と筆字の表現 運筆の極意に迫る

この字への想を込めて書こう~

れ(この平がなの原字は「禮」の草書形) 〈平がな一字書〉(参考作品)



石 橋 鯉 城 先 生

書





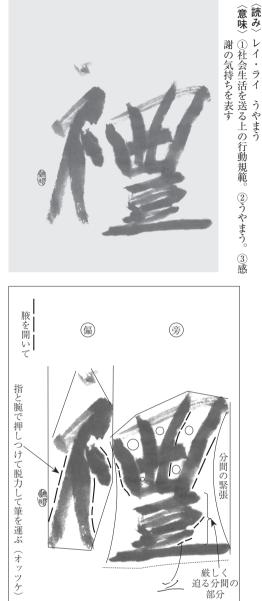
用紙

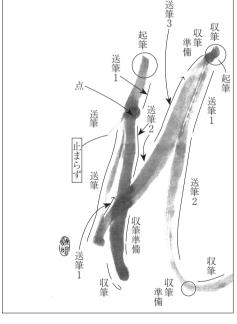
〈漢字一字書〉

(参考作品)

謝の気持ちを表す







主

- 構図

3.

- トに

4.

- エンタシスで細く ても生きた線で
- 2. 墨色の変化と運筆の緩急と点で 1. 書かれた文字の表情を見る の一服感

3. 字が立つ

4. 筆

一特選

永昌

小魔法の筆 (小さな羊毛筆)

逆さにも横にも又、斜めからも眺 いか。行書の禮か。 や。すくっと立つ文字の立、ずま めて先ず鑑賞せよ。何を感じたる

作品制作に当たっての参照項目

青墨の使用

1.

- 2. 重ね筆()特選永昌 小魔法の筆 (従)
- 5. 筆遣い 6. 線の中肥り 流動感を表現して軽快に ・細目の切れ味のよい線でスマ ・右寄せ 起筆・送筆・収筆

段級に関わりなく出品できます。(随 意 課 題)

評価は天と地になります。

ペン字での10分間練習法 17 (随意課題



広島県

上まうばら し 尾道市 廿日市市 佐された 伯ミ 区 安を佐さ 豊田郡大崎上島町とよたぐんおおさきかみじまちょう 山県郡安芸太田町 安芸郡府中町 郡神石高原町 南紫 市 <u>X</u> < 福山市 呉れ 中* 区 < 大竹市 安芸高田市 安佐北京 海田町 竹原市 東が 府からり 東広島市 区(北広島町 世世 安芸区 市心 羅郡世羅町 南紫区 三原 江田たじま 熊野町 一次に市 市心 西に区く 市に 坂カ 町ま

20字×10行の原稿用紙に書きます。

れないように書くことが大切です。 みましょう。10分書いても、指や手首が疲 まずは10分以内で書けるように練習して

用用具紙 ボールペン つけ 原稿用紙20字×10

ペン 万年筆 デスクペン

> どの段級の方でも出品できます。 「月別出品券」及び「バーコード出品券」を添付し出品してください。

課 題 解

説

漢字半紙 (誌友~五段) ………(3ページ)

厳島大鳥居(いつくしまおおとりい)

〈課題より〉広島 県廿日市市の厳島にある厳島神社の鳥 国の重要文化財 遺産「厳島神社」を構成する文化財の一つ。 厳島神社を象徴する建造物であり、世界

○行書の書きぶりを学ぶ。

○横画の太さを加減して書く。(太い横画もある)

厳…本字は嚴。左の垂れは身体を進む方向に傾けながらき りっとした線で表現する

島…4画目の短い横画は点にして空間を明るく見せる。 山の1画目の起筆をしっかり見せる

居…尸の3画目は骨力をつけ引き締まった線で表現する。 鳥…7画目は右肩を下げて四つの点が入る空間を広げる。 大…2画目はすぐに倒さずに縦に降りてから方向を変える。

〈用具・用材

筆=永昌四号

墨=油煙和墨 紙=松雪

本字

変える

軽く止める

漢字半紙 (四段~初段)………(4ページ)

安藝宮島(あきのみやじま)

(課題より) 西日本の広島湾に浮かぶ小さな島で、通称は に立つ壮大な朱色の大鳥居へは、 宮島。森林や古い神社仏閣で知られる。沖合 ると歩いて渡ることができる。

〈解説〉

○行書の基本的な書きぶりを学ぶ。

○筆写体の書きぶりを学ぶ。

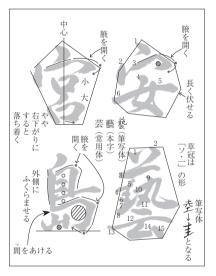
藝…芸の本字の筆写体。草冠が「ソ・一」で、「を」が 安…ウ冠と女の組合せ。3画目は2画目の点を受けて 徐々に腋を開き、肩を下げて払う。女の筆順に注意。 最終の横画を生かすためにウ冠はあまり広くしない。 「圭」となり「圭」と書いている。「丸」は「ノ」

宮…ウ冠と呂の組合せ。安のウ冠と形を変えてみた。 呂の口は下を大きくし、最終画をやや右下がりに が先。画数が多いので細めの線で書こう。 すると落ち着く。

島…3画目の転折部は腋を開いてやわらかく曲がる。 5本の横画は鋒先で細目に書く。

(用具・用材)

筆=永昌四号 墨=油煙和墨 紙=松雪



直線で

(向きが変わる) ふくらませる(向勢

起筆しっかり

間をあける

骨力を

漢字半紙 (1級~10級)………(5ペ

平和の像(へいわのぞう)

〈課題より〉

○平がなと楷書三文字をバランスよく書く。

平…2つの横画の反りの方向に留意。最終の縦画 は前

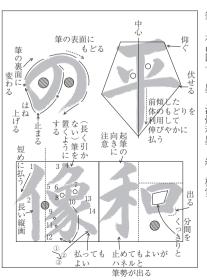
和…禾(のぎへん)と口の組合せ。偏の右側は旁にぶ 意したい。 つからないようにする(相譲相避)。口の位置に注 傾した体のもどりを利用して伸びやかに払う。

の…平がなは漢字より小さめに書く。 を確認しよう。 筆の面が変わるの

像…イ(にんべん)と象の組合せ。 で骨があるように書こう。 めに払い2画目を長くする。 10画目は円くしない 人偏の1画目

〈用具・用材〉

筆=永昌四号



ージ)

メスヘッルかっぞう
広島市平和公園にある平和の像(若葉) 座には湯川秀樹博士の和歌が刻まれている。 をかけまわる平和な情景を表現している。台 圓鍔勝三氏の作品で、少女が子鹿と共に野原

○鋒先の位置を確認しながら、きりっとした書線で表現

墨=油煙和墨 紙=松雪

かな半紙

あはれいかに草葉の露のこぼるらん秋風立ちぬ宮城野の原はれいかに草葉の露のこぼるらん秋風立ちぬ宮城野の原はる 解説 秀歌之體大略」 福原溪春先生

〈読み〉 ああ、今頃はどんなにか風に草葉の露がこぼれているだろう。秋風が吹 あ者れい可尔草葉能露のこ本るらん秋風多ちぬ宮城のゝ者良

※宮城野…宮城県仙台市宮城野

きはじめた宮城野の原よ。

公出典〉 新古今和歌集 巻第四 秋歌上30 西行法師

○行の流れを把握して書こう。

・1行目「い可尓」の「可尓」、「こ本るらん」の「るら」、2行目「のゝ」の

「、」は中心より右寄りに書きます。中心軸を示したので、確かめながら

- ○墨色の変化に留意する。 書いてみよう。
- ・渇筆部は墨をしぼり出すようなつもりで、ゆっくり運筆する。
- ・「草葉能露の」は渇筆部が長いので、「草」で軽く墨を補充してもよい。
- ○疎密の変化に留意する。
- ○6ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。 ・「本・者・良」「草・葉・露・宮・城」など。

○変体仮名・漢字の草書(くずし方)を理解してから書こう。

・「こ本るらん」は、この作品の印象的な箇所になっている

Ta 秋 くった(多) 1つか(可) くに(か) ろみ たみ けの(能) を約(露) 3 **七**年逝 ナイラは(者 30ら(良) ▲含墨 **↓** ほ(本)

(四段~初段) ………………………………… (7 ページ)

かな半紙

ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは(在原業平朝臣)

〈読み〉ち者やぶ留神代もき可寸たつ多川からく連なゐ二みづく、るとは 不思議なことが起こった神代にも聞いたことがない。竜田川に紅葉が真 っ赤な色に散り流れ、水を絞り染めにしているというのは。

〈出典〉 小倉百人一首17(古今和歌集 巻五秋歌下)

最後の文字の位置を考えましょう。

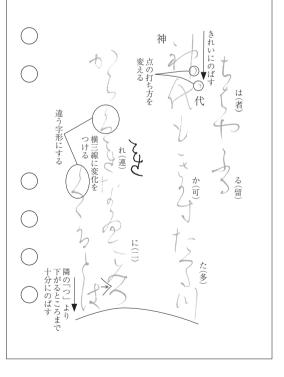
書いています。 今月は、和歌の最後の文字「は」の位置を、三行目の行脚「つ」よりも下に

ました。 の最後が軽くなりすぎないように「は」を下方に置き、少し重みを出して締め 墨量が多めで、漢字を使用した重量感もあるため、全体のバランスを見て、歌 「は」を「つ」より上の位置に書くこともできます。が、一・二行目の上部は

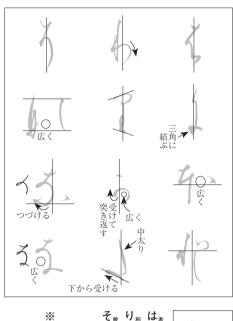
作品の最後をどのようにまとめるかは、とても大切なポイントです。

用具・用材

筆=かな用小筆 紙=かな用半紙 墨=かな用和墨



※左はしには、教室名・氏名を入れます。



な半紙 1 級分 10

......(8ページ)

りぇはま

単体の変体仮名です。 ります。 してください。 古典学習の基本とな くり返し学習

新和様 1 級分 10 級

広く 空間をみよう バランスを変えて 消えるように 余韻を残

吹きおこる秋風鶴を歩ましむ

〈作者〉

(用具・用材)

筆 = 超長鋒羊毫筆 墨=顕微無間 紙=松雪

〈大意〉 (13ページ)

でいる。昭和十二年の作。 は依然として秋風の中にたたずん たまま、わずかに位置を変えた鶴 つつと歩いた。翼は固くたたまれ た鶴が、突然風が強く吹き起こり 一、三歩脚を踏み替えるようにつ 本の脚で立ったまま静止して

〈鑑賞〉 解説 ◎筆を持つ前に、まずお手本を

石田波郷(一九一三~一九六九

くならないような布置が取られていま ります。確認しながら筆を進めましょう。 また仮名の線にも厳しい直線の表現があ)漢字は骨力をつけ、直線的に表現されて す。終りの「む」に余韻を残す書き方 や「む」は添えるように置き、さびし 大きく二つのまとまりを作り、 成す流れ、空間を見つけてみましょう。 います。点や長く引いた縦線などが織り 鑑賞してみましょう。 「秋風

誌友~初段 未定

1級~10級 米芾 蜀素帖臨書

誌友~10級

京にあきて此木がらしや冬住る

かな条幅

新和様

八段~初段

念ずれば

花開く

級~10級 未定

寂聴のことば

八段~初段 寸松庵色紙は「古今和歌集」の 几

龍光院にあった寸松庵に伝わった。 季の歌を書写したもので、大徳寺

ちりめん 和ろうそく

·級 10

級

化野念仏寺

嵐山 三千院

課題は変更になることがあります。

·11月号課題予告

漢字半紙

誌友~五段 鳥獣戯 画

四段~初段 大政奉還

かな半紙 1級~10級 西陣織

誌友~五段 鳴きわたるかりの涙やおちつらん

四段~初段 み吉野の山の秋風さ夜ふけて 物思ふやどの萩のうへの露

級~10級 能於末万介阿 佐支遊三志毛

ふるさと寒く衣うつなり(参議雅

経